



発行所: NPO法人いしかわ介護ボランティアセンター 〒920-0024 金沢市西念1丁目12番22号 労済会館2階
発行責任者: 宅本 門示 電話(076)222-3337 FAX 222-3374
編集者: 山下 恵三 八田 真奈美 E-mail ikvc@isis.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www10.ocn.ne.jp/~sawayaka/>

謹賀新年

2015年元旦

新年のごあいさつ



～ 社会の変化に目を閉ざさないで ～

新年あけましておめでとうございます。



理事長 澤 信俊

戦後70年の節目をむかえる今、この国の在り様が大きく変わろうとしています。貧困、格差、人権などの問題は改善されるこ

となく、これからさらに深刻化することが予想されます。なかでも高齢社会で問われる介護福祉では、事業者への介護報酬を切り下げることによって、事業所で働く人びとの賃金や職場環境に負の影響を及ぼすことが考えられます。結果、介護保険制度を利用し人間としての尊厳を保ちながら生きようとする高齢者は、何時でも何処でも必要とするサービスを必要だけ受けることができなくなってしまうのです。

その一方では、過去最高の防衛費の予算付けで軍備強化を可能にし、戦争ができる国へと突き進んでいます。国の根幹である憲法を変え、次の世代に財政赤字と大きな税負担を残そうとしているのです。今起こっている変化の流れに目を閉ざしていると、子や孫の世代から私たちは「愚民」であったと烙印を押されてしまいます。

ボランティア元年といわれる阪神・淡路大震災が発生して20年が過ぎました。昨年と同じ結びになりますが、市民革命の時代にイギリスで生まれたボランティアという言葉は、郷土を愛する人たちが義勇軍としてこの戦いに参加したことに始まったといわれています。「義」と「勇」の二語を私は、「バランスのとれた人間関係」と「人間関係を維持する力」の意味を持つ言葉として大切に使っています。

本年も引きつづき、この「義勇」を大切にして活動したいと思っております。

「年末餅つき」で高齢者を慰問



昨年12月20日(土)、養護老人ホーム向陽苑木曳野(金沢市桂町4街区1-1)にて、恒例の年末餅つき大会を開催しました。ホールに詰めかけた施設利用者約50名の前で年末の風物詩である餅つきを披露し、おいに喜んでいただきました。さわやかUから役職員、ボランティア会員19名が参加し、施設利用者を慰問するとともに互いの友好を深める一日となりました。



澤理事長が開会あいさつ

当日は、穏やかな日和のもと、午前9時過ぎから準備を開始しました。

餅つきの前に、施設利用者の皆さんに澤理事長より「さわやかUは2000年に介護保険制度が始まって以来、介護保険ではできないサービスを提供してきました。今日一日を皆さんと共に楽しみたい」と挨拶しました。



田中美絵子さんも駆けつけ、元気に餅つき

今回の餅つきは、「利用者のお年寄りに餅を食べていただけないが、若い頃経験した餅つきを思い出したりして楽しんでもらいたい」との施設からの要望で実現しました。利用者の皆さんは餅つきを心待ちに、もち米が蒸しあがる前からホールに集まっていました。餅つきが始まると、「ヨイショ、ヨイショ」と掛け声があがります。元気な方は杵をふるいます。終了後には、さわやかUのスタッフに歩み寄って「久しぶりに餅つきが見られて楽しかった」「わざわざ来てくれてありがとう」と声をかけてくれました。

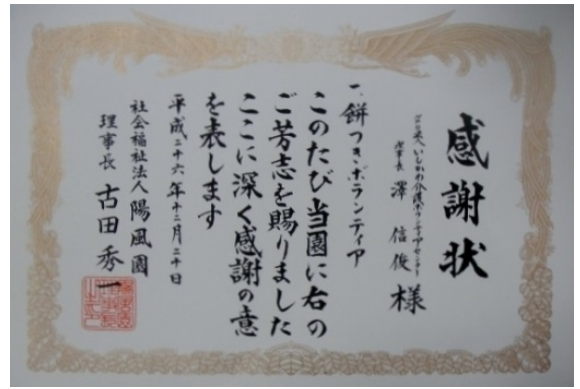


活動あとの歓談のひとつ

餅を食べていただけない代わりに、正月飾り用に20センチ大の『鏡餅』を3セット贈りました。ボランティアで参加した女性陣からは「鏡餅を作るのは初め

てで難しかったけど、思ったより上手に丸められてよかった」と、やりがいを感じた感想が寄せられました。

餅つきは約1時間で6臼をつき、後片付けの後、施設の好意で用意していただいた部屋にて、ボランティア全員でつくきたての餅を味わいながら歓談し、この日の活動を終わりました。



施設より感謝状をいただきました

全国ボランティアフェスティバルに参加



長良川国際会議場前で参加者一同

今回は岐阜県での開催でした。昨年9月27、28日、「第23回全国ボランティアフェスティバルぎふ」が長良川国際会議場などで開催され、さわやかUから運営委員の太田さん、ボランティア会員の小川さん、山下マネジャーが参加しました。

初日、開会式あとの記念講演では、岐阜県白川郷での、「結」に代表される暮らしを支えてきたしくみを子どもたちに伝えるための取り組みが報告されました。続くトークセッションでは、愛知県一宮市の「のわみ相談所」の、社会の中で人との

つながりが断たれた広い意味での“ホームレス”を受け入れ、自立を後押しする活動と、秋田県藤里町社会福祉協議会の、引きこもりの若者を支援し彼らの力を地域づくりに活かす取り組みが紹介されました。ホームレスと引きこもりという解決の容易でない課題に関係者が熱意をもって取り組み、見事な成果を上げていることに感心しました。

2日目の分科会には、3名が3つの分科会に分かれて参加しました。そのうち「いつでも外出できるしあわせ」の分科会では、岐阜県可児市帷子地区社会福祉協議会から、要見守り世帯の高齢者の送迎サービス事業が報告されました。この「ボランティアが所有する自家用車を使い、自ら運転するボランティア活動」は、送迎サービスを幅広く展開する際に参考となるものでした。

今回学んだ事をさわやかUの今後の活動に生かしていきたいと思えます。次回は福島県での開催となります。

車椅子利用者と花見を楽しむ



「わあ綺麗」「素晴らしいねえ」桜満開の兼六園に歓声が上がりました。障がいを持った車椅子利用者12名をはじめ、総勢49名が春の兼六園を満喫しました。

4月12日(土)、日頃歩行が困難な障がい者やお年寄りと一緒に金沢の名所をゆっくり楽しもうという企画の第1回目として「みんなで、ゆっくり、金沢探訪in兼六園」を実施しました。NPO法人環境・福祉・活性化ネットワークからの共催の要請を受けて、さわやかUからボランティア会員、事務局員計8名が参加し、車椅子移動車1台を派遣しました。

朝9時、県立美術館広坂別館前での開会式の後、総勢49名が5班に分かれ、車椅子の方を補助しながら兼六園の「お花見コース」をのんびり約2時間かけて散策しました。各所でボランティアガイド「まいどさん」から説明をうけ、金沢の一大名所の知識を皆で深めることができました。途中、時雨亭でのお茶会も楽しみました。

この日は穏やかな春日和で桜も満開、うってつけのお花見となりました。桜の下でゆったりとした気分を味わい、自然と顔つきもほころぶひとときでした。障がい者の方々は口々に「ありがとう」の言葉をかけてくれました。閉会式では、ボランティアのメンバーも「障がい者の方に楽しんでもらうつもりが、自分のほうが楽しんだいい一日でした」と語っていました。活性化ネットワークの代表が「皆で一緒に楽しい時間を過ごすことができました。この金沢探訪を来年からも是非続けていきたい」と述べ、この日の活動を締めくくりました。

編集後記 遅くなりましたが、「さわやかU」だより新年号をお届けいたします。また、昨年夏号を発行できなかったことをお詫び申し上げます。本号では、理事長の新年のご挨拶をはじめ、この1年間の「さわやかU」の主な活動を紹介させていただきました。